

☆令和2年度の北小学校学校運営協議会について

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、児童の安心安全を守ることを最優先にし、北小学校でもいろいろな対策を講じてきたことを聞き、保護者の皆様のご苦労も大変だったことと推察いたします。感染防止対策については、まだまだ継続していくことになると思いますが、学校運営協議会としてもできることを検討していきたいと考えています。

さて、本年度も北小学校学校運営協議会の運営がスタートし、例年通り年間4回の会議を計画しています。1回目は、新型コロナウイルス感染症拡大防止策として紙面開催で行いました。紙面ではありませんでしたが、令和2年度の北小学校の経営方針や新しい学習指導要領下での教育課程の内容等を確認させていただきました。

2回目は、7/2(木)に北小学校を会場に行き、授業参観や給食試食会と併せて行いました。内容としては、本年度の北小学校の学校課題について協議しました。喫緊の課題として様々なことが考えられますが、特に「児童の安全意識」の醸成が大切であろうと考えました。これは、自然災害や不審者対策、新型コロナウイルス感染症対策等、現在社会の様々な状況に応じ、児童自身が自らの力で自身の命を守る行動が取れるよう成長していくことが何より大切と考えたからです。

これらのことも考えながら、本年度も学校運営協議会として北小学校の児童のために支援を行っていききたいと考えています。保護者の皆様におかれましても、是非、お体にご自愛いただければと存じます。本年度も、どうぞよろしくお願いいたします。

～ 本年度の北小学校運営協議会委員です。どうぞ、よろしく願いいたします。～ (50音順)

会長 芝崎和子(曲輪町3区区长)

副会長 小池千春(北小PTA会長)

委員 浅野正史(北小PTA副会長)

新井悦子(北地区子ども育成会副会長)

新井恵子(放課後こども教室コーディネーター)

正田清江(北公民館長)

高橋 望(群馬大学大学院准教授)

橋本千代子(北地区民生児童委員)

平岡さつき(共愛学園前橋国際大学教授)

本堂晴生(NPO法人Gコミュニティー代表理事)

山田千広(放課後児童クラブ「こどもサポート」運営スタッフ)

新井俊一(北小学校校長)

オブザーバー 佐藤佐知子(北第二小学校校長)



< 第2回の会議の際に撮影
(高橋委員は職務の都合により欠席) >

★委員からの声(本年度も委員の声を掲載させていただきたいと思います)

新井悦子委員「夢に向かってするべきこと」



みなさんの将来の夢は何でしょうか?小さい頃は、〇〇レンジャーやプリキュアになりたいなどと七夕の飾りに書いた子も多かったですね。だんだん大きくなるにつれて、それにはなれないのだと気がきます。でも、いいんです。なりたいものがあって、それになろうとしてまねをしたり、踊りを覚えたりと夢中になり楽しんだりすることが大事なのです。成長するにしたがって現実的な夢が変わってきます。そして、その夢のために努力をします。夢を紙に大きく書いて壁に貼り、毎日見ていると夢に近づくそうです。若い頃に書いて、その通りの夢を実現させた私の友人もいます。

将来こうなりたい、そのためには、今、何をすべきか。先のことを考えて、予想して行動することが必要だと思います。すぐ先の未来を思い描き、今の時間を大切に生きて、一生懸命を楽しもうじゃないですか!



正田清江委員 「災害にぞなえる」

最近、災害が頻繁に起きているように感じます。実際に、伊勢崎市内でも昨年、避難勧告が出るほどの大雨に見舞われました。北地区では、6カ所避難所が指定されており、北小学校もそのうちの一つです。近いところでは、図書館、第一幼稚園、北公民館が指定されています。学校の場合は原則として、授業再開を考慮し、第一段階では体育館を使用し、第二段階で特別教室等を使用することになっています。

ペットを飼っている人はどうしたらいいと思いますか。盲導犬などの補助犬を除いては、生活場所への持込可能な施設は、第二市民体育館（風水害時のみ）です。ケージに入れて室内で一緒に生活できます。地震時や、風水害時の第二体育館以外の避難所では、ペットは屋外の駐輪場・軒下・車内で、ゲージ内または指定された場所につないで管理することになります。首輪や持ち運びゲージを普段から点検しておくとういと思います。

コロナ対策として、マスク・除菌シートも持出袋に加えておくと安心です。以前は「災害は忘れた頃にやってくる」といわれていましたが、最近は毎年のように「今までにない経験」という言葉とともに被害が発生しているような状況です。大雨は、地球温暖化による海水温の上昇が原因では、とも言われています。地球上でやさしい生活を取り入れつつ、日頃から災害に備えていきたいですね。



高橋委員 「メディアの力と重要性」

コロナ禍において、学校や先生方は本当に多くのご苦勞があると思います。子どもたちも、普段の学校生活ができずに辛い思いをしていると心配しますし、保護者の方々もまた色々な思いを抱いているのではないかと思います。私たちが普段得ている情報や知識の多くは、様々なメディアを通して、ということになると思います。ある調査によれば、日本人が1日にテレビを見て過ごす時間は平均すると約3時間30分とされています。このペースで過ごすと仮定すると、1週間では…。1か月では…。1年では…。人生の相当な時間をテレビと一緒に過ごしていると言っても過言ではなく、それだけ影響を受けていると言えます。その他、新聞、雑誌、インターネットやSNSなどを含めると、その時間はもっと増えることになります。



メディアの特性を考えると、その内容には、必ず編集者等の作り手側の意図が含まれます。ある出来事をどのように伝えるか、それを決めるのは作り手であり、受け手である私たちは、それを受け取るしかありません。だからこそ、私たちは、メディアの特性をよく理解し、メディアとうまく付き合っていく必要があると思います。

コロナ禍においては、様々な情報が耳に入っていきます。その情報をいかに受け取るのか、メディアの力と重要性を痛感します。



山田委員 「命の大切さ」

新型コロナウイルスの流行による休校の中でスタートした今年度は、新学習指導要領のスタートでもあります。新学習指導要領では、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力など」「学びに向かう力、人間性など」を3つの柱にしているそうです。二つ目の「思考力・判断力・表現力など」の前には、「未知の状況にも対応できる」思考力・判断力・表現力などを育成するという説明がありました。

新型コロナウイルスが流行している今の状況は、その力を身につける機会ととらえることも出来ます。子どもたちだけではなく、私たち大人にとっても同じことが言えるのではないのでしょうか？

学校が休みになったり、伊勢崎祭りや花火大会など様々なイベントが中止になったり、マスクをつけて生活したり、大人も子どもも大変です。

そういう中で、私が思うのは、勉強よりも行事よりも、生活の便利さ・快適さよりも「命が大切」だということです。命が大切で、健康が大切だから、イベントが中止になったり、暑い中マスクをつけたりしています。

学校での生活でも、日常の生活でも、模索がつづいています。こういう「未知の状況」の中で、新しいやり方を考えていくときに、「命が大切」というのは、一つの判断材料になるのではないかと思います。この状況を悲観するだけでなく、この状況でもできることを、地域の皆さんや保護者の皆さん、先生方と一緒に模索していきたいと思っています。

